

平成22年度 第2回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2010年7月～8月)のポイント

(1) 来遊量：

シラスは播磨灘東部を除いて前年を下回るか前年並み。

カタクチイワシ(小羽から大羽)は前年並みか上回る。

(2) 漁場：

紀伊水道東部のシラスは不漁であった前年並み。

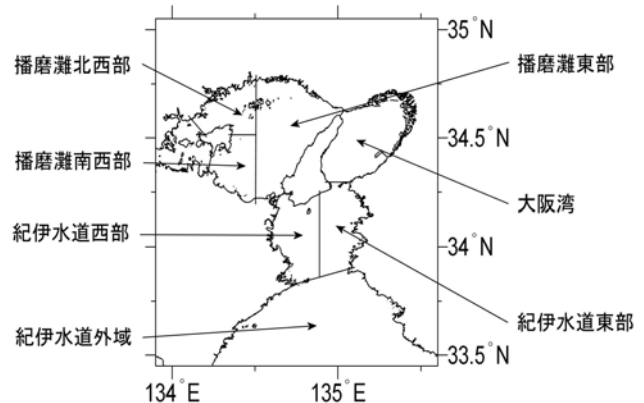
紀伊水道西部のシラスは不漁であった前年を下回る。

大阪湾のシラスは好漁であった前年を下回るが、平年を上回る。カタクチイワシは好漁であった前年並みか上回る。

播磨灘東部のシラスは平年並みであった前年を上回る。

播磨灘南西部のシラスは平年並みであった前年を下回る。

播磨灘北西部のシラスは好漁であった前年を下回り、平年並み。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 香川、今井

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>

平成22年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2010年7月～8月）

シラス（本年夏季発生群）

紀伊水道東部では不漁であった前年並み。

紀伊水道西部では不漁であった前年を下回る。

大阪湾では好漁であった前年を下回るが、平年を上回る。

播磨灘東部では平年並みであった前年を上回る。

播磨灘南西部では平年並みであった前年を下回る。

播磨灘北西部では好漁であった前年を下回り、平年並み。

標本漁協、もしくは標本船の漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2009年の平均値を平年値とした。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では好漁であった前年並みか上回る。

標本船の漁獲量を指標とし（図4）、1985～2009年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2010年5月～6月）および今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では5月の漁獲量は前年の128%、平年の89%であった。6月は11日現在、好調である。

紀伊水道西部（徳島県側）では5月の漁獲量は前年の55%、平年の40%であった。6月上旬以降、漁獲量は増加傾向にあったが、長続きしていない模様である。

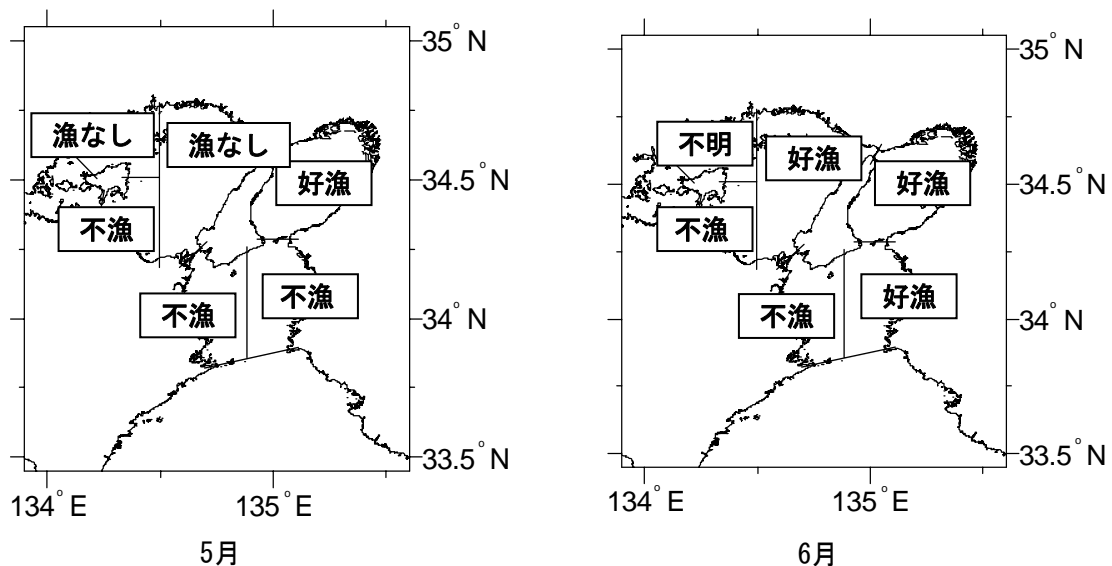
大阪湾（大阪府）では2010年の漁は前年より早い4月22日から始まった。4月の漁獲量は前年の2%、平年の1%であった。5月は前年の165%、平年の144%であった。6月も引き続き、好調である。

大阪湾（兵庫県）では2010年の漁は前年より13日遅い5月6日から始まった。5月の漁獲量は前年の97%、平年の75%であったが、6月に入ると好転し、18日現在まで好調である。

播磨灘東部（兵庫県側）では2010年の漁は前年より11日遅い6月1日から始まった。開始直後は比較的低調であったが、その後好転し、漁獲量は18日現在も徐々に増加傾向にある。

播磨灘南西部（香川県側）では5月の漁獲量はほとんどなく、低調であった。6月に入って若干増加し始めている。

播磨灘北西部（岡山県側）では2010年の漁は前年より1週間程度遅い6月8日から始まった。漁獲量については集計中である。



2010年5～6月のシラス漁況

(2) 産卵量

紀伊水道外域東部では5月は前年の48%、平年（1991～2009年の平均値）の54%であった。紀伊水道東部では5月は前年の128%、平年の89%であった。

紀伊水道外域西部では5月は前年の190%、平年の145%であった。紀伊水道西部では5月は前年の148%、平年の95%であった。

大阪湾では5月は前年の47%、平年の150%、6月は前年の279%、平年の292%であった。

播磨灘では6月は前年の3%、平年の11%であった（図5）。

(3) 今後の見通しの説明

シラス（本年夏季発生群）

6月17日現在、黒潮は都井岬沖で接岸、足摺岬沖でかなり離岸、室戸岬でやや離岸、潮岬沖で接岸している。6月16日に得られた海面水温衛星画像によると、紀伊水道外域に黒潮系暖水の波及が見られる。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産総合研究センターの海況予測モデル(FRA-JCOPE)の情報を併せて考慮すると、7月には期間を通じて潮岬沖で黒潮流路がやや離岸した傾向を示すが、8月上旬以降は再び接岸して推移すると予測される。

紀伊水道東部では外海発生群および内海発生群が漁獲されていると推定される。紀伊水道外域東部および紀伊水道東部の5月の産卵量は総じて平年より少なかった。産卵状況から判断すると不漁であった前年並みであると考えられる。

紀伊水道西部でも外海発生群および内海発生群が漁獲されていると推定される。7～8月の漁獲量は6月の紀伊水道西部と播磨灘（徳島県海域）の水温が低いほど多くなる傾向があり、播磨灘（徳島県海域）よりも紀伊水道の影響が大きい（図6）。水温は紀伊水道西部で前年より0.3℃高く、平年並み（平年値−0.5℃≤並み≤平年値+0.5℃）であった。一方、播磨灘（徳島県海域）の水温は前年より1.7℃低く、平年よりやや低め（平年値−1.0℃≤やや低め<平年値−0.5℃）であった。6月の産卵量は紀伊水道西部では不明であるが、播磨灘（徳島県海域）では前年、平年を下回った。水温と産卵状況から判断すると不漁であった前年、平年を下回ると予測される。

大阪湾では外海発生群が春から引き続き漁獲されるのにに加え、内海発生群が6月以降にシラスとして漁獲されるようになる。現在、黒潮は接岸傾向で大阪湾への来遊条件はよいが、7月に離岸すると予測されていることから7月以降の外海発生群の漁獲はあまり期待できない。本年夏季の大阪湾における内海発生群は、産卵状況から前年、平年を上回ると推測されるが、6月に異常発生卵が多かったことや卵の出現に比較して稚子が少ないことから、生

き残りがあまりよくない状況にある可能性がある。以上のことから、本年の夏シラス漁は、好漁であった前年を下回るが平年を上回ると考えられる。

内海発生群が漁の主体である播磨灘東部では6月の水温が低いほど7~8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図7)。また明瞭でないものの6月の産卵量が多いほど7~8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図7)。6月の産卵量は少ないが、水温はやや低めであることから(図5)、平年並みであった前年を上回ると予測される(図8)。

播磨灘南西部も内海発生群が漁の主体である。漁獲量は6月に入って若干増加し始めているが、依然低調なままであり、5~6月の卵稚仔密度も平年を下回っている。現在までの漁況と播磨灘南西部での産卵状況から判断すると平年並みであった前年を下回ると考えられる。

播磨灘北西部も内海発生群が漁の主体である。6月の産卵量は前年を下回り、平年並みであった。産卵状況から判断すると好漁であった前年を下回り、平年並みであると考えられる。

カタクチイワシ(小羽から大羽)

大阪湾では漁期当初に前年発生の子魚、その後は本年春シラス漁で漁獲の対象となった0才魚が小・中羽として漁獲される。前年は8月まで平年を上回る漁獲がみられ、大阪湾に滞留している1才魚は多いと考えられる。このことと、本年春シラスの漁況と夏シラスの漁況予測から判断して、好漁であった前年並みか上回ると考えられる。

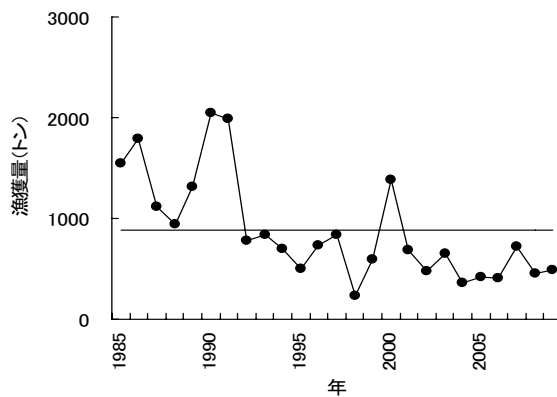
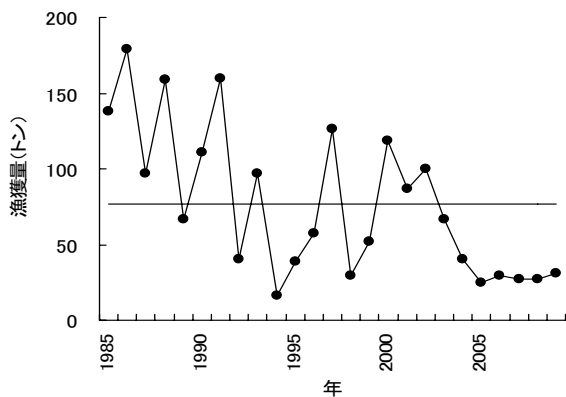


図1 紀伊水道東部（和歌山県側：左図）および紀伊水道西部（徳島県側：右図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

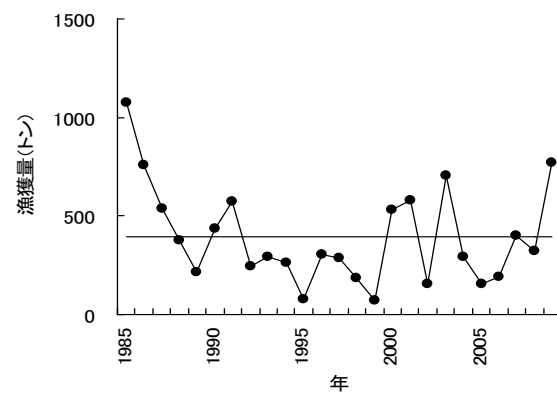
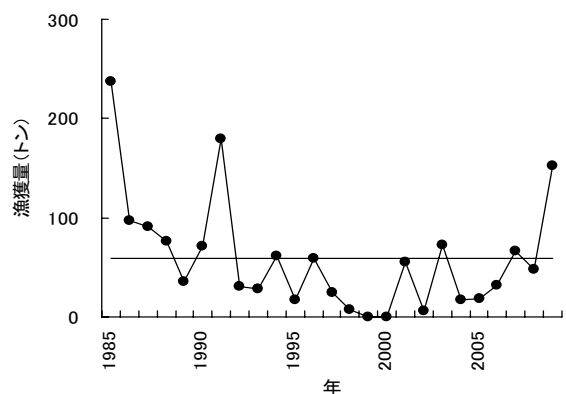


図2 大阪湾（大阪府：左図、兵庫県：右図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

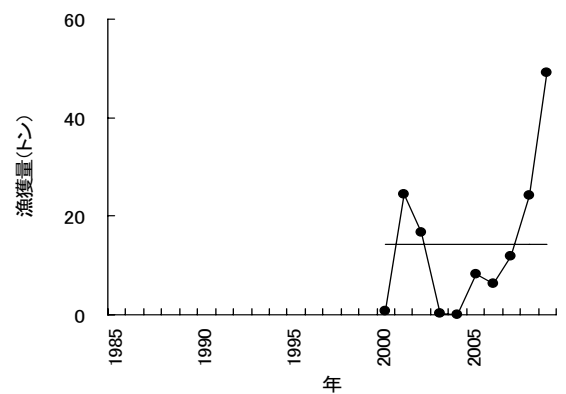
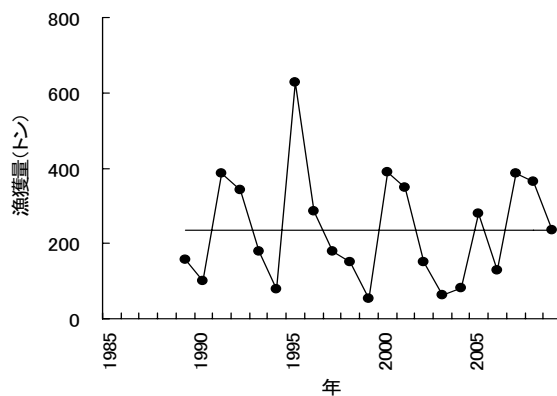
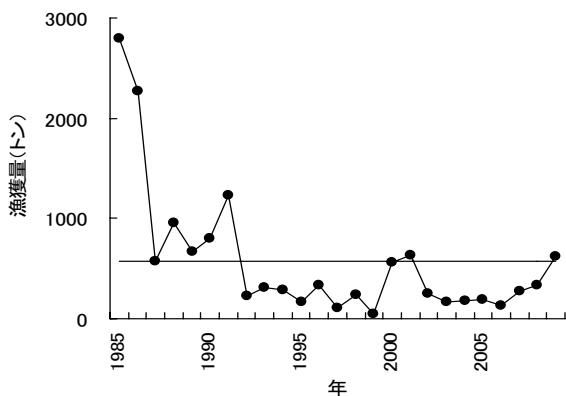


図3 播磨灘東部（兵庫県側：左上図）、播磨灘南西部（香川県側：右上図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量、および播磨灘北西部（岡山県側：左下図）の標本船における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

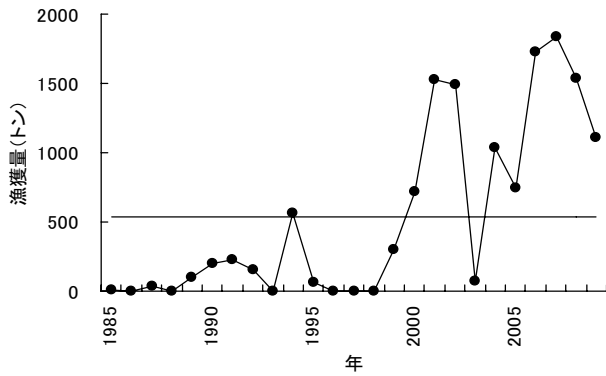


図4 大阪湾の標本船における7~8月のカタクチイワシ漁獲量（実線は平年値を示す）

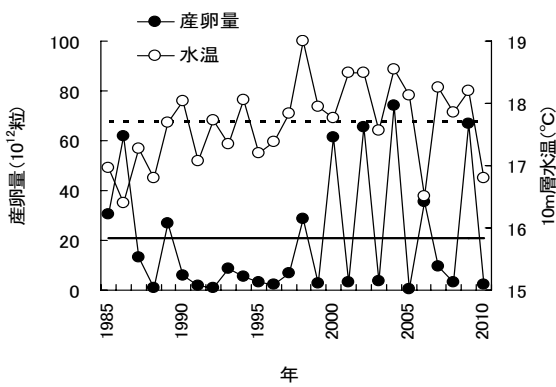


図5 播磨灘における6月の産卵量と10m層水温（実線は産卵量、点線は10m層水温の平年値を示す）

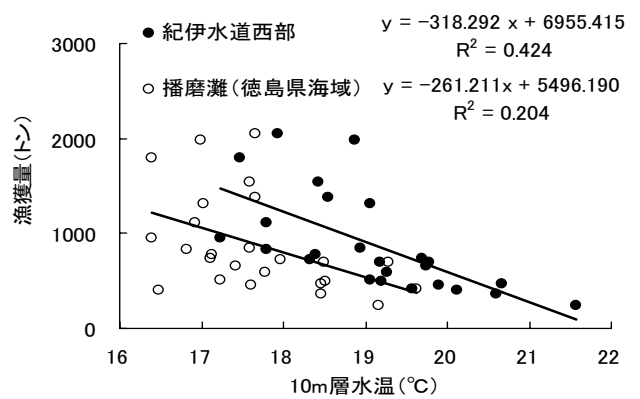


図6 紀伊水道西部・播磨灘（徳島県海域）における6月の10m層水温と紀伊水道西部の標本漁協におけるシラス漁獲量の関係

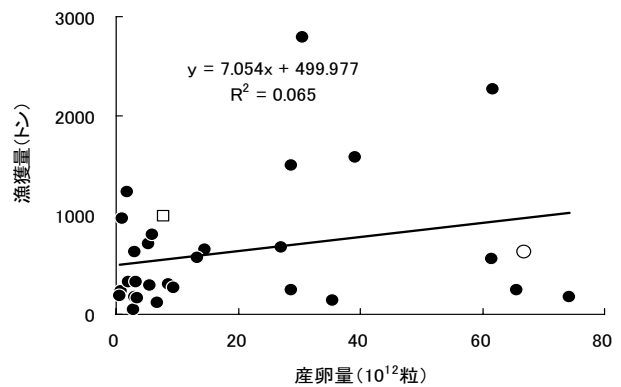
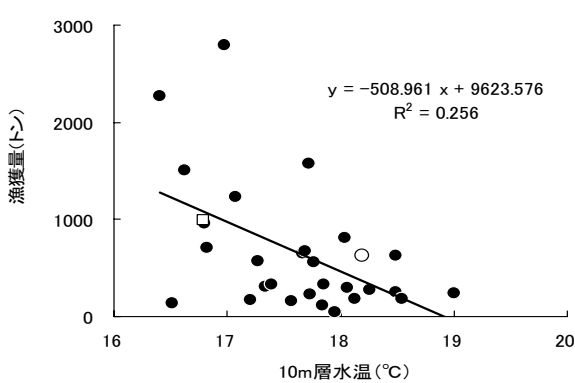


図7 播磨灘における6月の10m層水温と播磨灘東部における標本漁協のシラス漁獲量の関係（左図）および6月の産卵量と標本漁協のシラス漁獲量の関係（右図）

使用したデータは1981~2009年、○は2009年の漁獲量、□は2010年の予測値（2010年の予測値は産卵量と水温をパラメータとした重回帰分析から求めているため、各図の回帰直線上にはない）

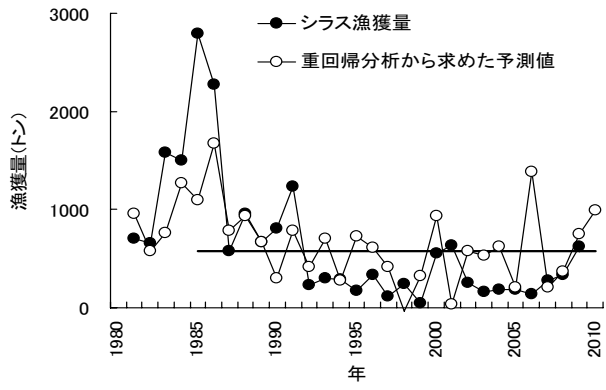


図8 播磨灘東部の標本漁協における7-8月のシラス漁獲量と重回帰分析から求めた漁獲量予測値（実線は平年値を示す）

参画機関

| | |
|------------------------------|--|
| 和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場 | 香川県水産試験場 |
| 大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター | 徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所 |
| 兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター | 水産庁 増殖推進部 漁場資源課 |
| 岡山県農林水産総合センター 水産研究所 | 独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 瀬戸内海区水産研究所 |